

みえケアマネ通信

16

VOL



就任一年目を振り返って

一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
会長 奥田隆利



会員各位におかれましては、当協会の運営に関しご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。平成27年5月から会長という重責を担うことになり、早10か月が過ぎ去ろうとしています。この間、昨年12月には日本介護支援専門員協会東海ブロック研修を初めて三重県で開催し、約230名の方にご参加をいただきました。来賓としてご出席を賜りました桑名市長の伊藤徳宇様、三重県健康福祉部長寿介護課長中村徳久様にはお祝い並びに地域包括ケアシステムの構築に関してのケアマネジャーに対する期待の大きさが感じられるご挨拶を頂戴しました。基調講演では鈴鹿医療科学大学長の豊田長康先生からあらためて地域包括ケアシステムとは「全員参加型で2025年を乗り越えるための地域支え合い体制づくり」であることを理解することができました。また、桑名市保健福祉部地域介護課長高橋潔様からは、貴重な「事業の実践報告」をいただきました。システムの構築には様々な課題があり、だからこそ多種多様な工夫や仕掛けが必要であること。そしてそこにケアマネジャーとしてどう関わるのか、それは介護保険制度の基本理念とケアマネジメントの原理原則に立ち返り、多職種による地域づくりを進めることであると確信することができました。東海ブロック研修会の準備運営に際しまして桑市役所様、桑名市社会福祉協議会様、三重県介護支援専門員協会桑員支部の皆様に多大なご尽力をいただきましたことを重ねてお礼申し上げます。これこそ桑名市における多職種協働の成果であると実感することができました。

地域包括ケアシステムの構築に関しましては、保険者様の進捗状況等により、まだまだケアマネジャーの関心度に差があるように感じます。介護保険制度の要といわれるケアマネジャーとして、もう無関心では居られません。ケアマネジメントの原理原則に立ち返り、ICFの視点から丁寧なアセスメントによる「見立て」と介護保険の基本原理に即した「手立て」を多職種で見出し、利用者様と環境の相互作用を考える上で、地域への視点すなわち地域資源の把握さらにその開発についても関わる覚悟と能力を身につけるための学習が我々ケアマネジャーには必要であると考えます。

今年、当協会は設立10周年を迎えます。節目の年として個々のケアマネジャーの資質向上のみならず、会員皆様の後方支援がしっかり行える協会へと更なるレベルアップするために、各支部長様をはじめ役員の皆様方と力を合わせ事業を展開して参る所存でございます。今後とも、ご支援の程よろしくお願ひ致します。



一般社団法人 三重県介護支援専門員協会 〈事務局〉〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目131 三重県社会福祉会館1F 編集：広報部会

電話 059-213-7766 FAX 059-213-7765 <http://mie-cma.net/> 発行者：一般社団法人 三重県介護支援専門員協会 会長 奥田隆利

国への掛橋

三重県介護支援専門員協会 副会長
(日本介護支援専門員協会 副会長)

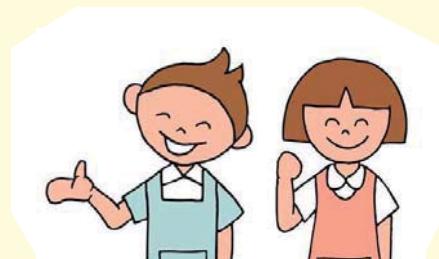
原田 重樹

27年度施行の介護保険制度改正、報酬改定から間もなく1年が経過しようとしています。既に本年2月には、次期制度改正に向けた社会保障審議会・介護保険部会が再開される予定となっています。次の平成30年度施行の制度改正、報酬改定は、医療との同時改定でもあり、居宅介護支援事業所の指定権限の市町村委譲、日常生活支援総合事業の本格実施等々もあり、更に大きな変革を求められる事が必至であり、少しでも先を見据えた議論をして行く事が求められている状況にあります。

更に、取巻く状況という点については、平成25年度に施行の障がい者総合支援法の改正の議論が現在進められており一定のとりまとめがされつつ有りますが、とりわけ高齢の障がい者への支援の在り方も併せて議論が進められています。その主な論点は、65歳となった以降もそれまで支援をしてきた障がい福祉サービス事業所が引き続き支援を行えるよう、介護保険事業所（いわゆる基準該当等）の見直し、相談支援専門員と介護支援専門員の連携推進、精神障がい者及び高齢の障がい者に対する支援の在り方の明確化、それぞれの視点の理解を促すための研修の必要性、更に、相談支援専門員と介護支援専門員の両方の有資格者を拡大するための方策の検討、「親亡き後」に向けて、本人を支えるためのチーム作りを主導するための「主任相談支援専門員」（仮称）を創設等、私たち介護支援専門員との関わりが非常に深い所でも議論がされている状況にあります。

このような情勢をも踏まえてとなりますが、日本協会としては平成28年度の事業計画(案)についての整理を現在進めています。本事業計画案の柱立ては、基本的には28年度の事業遂行に関する方針では有りますが、更に長期的な視点から介護支援専門員というケアマネジメントの対人援助専門職としての在り方を見据え、そのために必要な取組みを如何に進めて行くかで有ると考えています。まだまだ粗いもので今後さらに精査して行くべきものとなりますので、ご参照頂き、ご意見等ございましたら三重県介護支援専門員協会あるいは、ご所属の支部にEメール、FAX等々にて寄せ頂ければ有り難いと思いますので、宜しくお願い致します。

また、日本協会としてはメルマガ等々にて出来る限りリアルタイムに諸般の情報提供をして行く予定をしております。もしメルマガの配信登録が未登録の方は是非登録をして頂きたいと思います。



◆平成28年度日本介護支援専門員協会事業計画策定における基本的な視点(柱立て)◆

- (1) 平成27年度施行の制度改正及び報酬改定を踏まえ、次期制度改正及び報酬改定に向けた対応
- (2) 介護支援専門員としての中長期ビジョンの明確化と具体的な計画の策定
- (3) 職能団体としての組織力の向上に向けた取組み
- (4) 介護支援専門員個々人の対人援助専門職として資質向上及び担保
- (5) 主任介護支援専門員等への指導、支援のできるスーパーバイザーの人材育成、プログラムの検討
- (6) 国家資格化を見据えた社会的地位向上への継続的な取り組み
- (7) 全国の介護支援専門員の意見を集約、共有・拡充を可能とする全国組織としての体制整備
- (8) 他の職能団体及び介護サービス事業者の全国組織との連携強化

平成27年度 東海ブロック研修会 in 三重

レポート

愛知・岐阜・静岡・三重の順で各県介護支援専門員協会が連続2年づつ持ち回りで開催する研修活動が昨年12月6日（日）に開かれました。そのレポートをお届けします。

午前の部

★基調講演 「桑名市地域包括ケア計画 策定」

桑名市地域包括ケアシステム推進協議会 会長 豊田長康 氏

★事業の実践報告 「桑名市の取組から見えてきた課題と工夫」

桑名市保健福祉部地域介護課 課長 高橋 潔 氏

「桑名市地域包括ケア計画」策定にあたっての取り組みについて、ご講演頂きました。「桑名市地域包括ケア計画」（以下「ケア計画」）策定にあたって、推進協議会を設立しました。この協議会の中で、行政が主導するのではなく多職種協働の中で市民も含めた全員参加型による地域支え合いの為の体制作りや、自宅でも施設と同じ安心を届ける為の体制づくり等について、討議が行われ「ケア計画」が策定されました。その後は、介護認定者数の減少、介護保険料の削減などの効果が現れてきました。今後は、「ケア計画」の進歩状況の確認や評価を行い、必要な改善を行っていく予定であると語られました。



次に、桑名市役所地域介護課課長高橋潔氏より、桑名市の地域包括ケアの基本理念、重点施策等についてご講演いただきました。「ケア計画」の基本理念は、「高齢者の尊厳保持、自立支援」である。その構築の為、介護予防に資するサービスの提供と在宅生活の限界点を高めるサービスの提供が重要と述べられました。また、困難事例解決の為の関係者による支援調整を行う「地域支援調整会議」、多職種協働で自立支援の為のケアマネジメントを支援する「地域生活応援会議」が行われ、その取り組みについて具体的にご説明をされました。また、介護支援専門員に対して、その専門性をいかんなく發揮し、利用者その人にふさわしい生活を実現する為の支援を行って頂きたいと、話されました。最後に高橋氏より、今必要なのは地域住民の一人ひとりが、それぞれの立場で何をすべきか？何ができるのか？を考え行動する事が「地域包括ケアシステム」の構築に必要であると、語られ講演が終わりました。

午後の部

★地域包括ケアシステム構築に向けたケアマネジャーの取組発表

★シンポジウム「ケアマネジャーは地域包括ケアシステムとどう向き合うか」

「地域包括ケアシステム構築に向けたケアマネジャーの取り組みについて」愛知県池田氏より急性期医療を活かした地域つくり、岐阜県安達氏よりサロンを活かした地域への取り組み、静岡県村田氏より事例を通じてのメリットとデメリット、三重県飯田氏より支部の取り組みについてそれぞれ発表をして頂きました。



シンポジウムでは「ケアマネジャーは地域包括ケアシステムとどう向き合うか」をテーマに話が進められた。愛知県奥田氏より地域ケア会議を通じての社会資源の開発、岐阜県安達氏より介護支援専門職1人1人で出来ることを見つけ出し地域での活動・行動が必要、静岡県村田氏より個別の課題から地域での共通課題を抽出・還元出来る取り組み、三重県福本氏より介護保険理念の原点に立ち戻る・マネジメント力の追求・コーディネーター力をつける事が大事と述べられました。最後にコメントーター原田氏が、担当地域・社会資源を把握しアセスメントと評価が重要である。ケアマネジャーが地域の困りごとを1番把握しているはずであり、地域ケア会議できちんと言語化・意見交換することが大事と述べられました。

支部だより



○桑員支部○

連絡先：0594-75-0302

桑員支部は、三重県の最北端にある支部で桑名市、いなべ市、東員町、木曽岬町の会員184名で構成しています。今年度は、三重県で初めての東海ブロック研修会が桑名市で開催され、支部としても協賛金のお願いや当日の係り等に協力をさせていただき、学びにつながったところです。協賛金事業者様訪問では、日頃のご協力の御礼等を伝える事ができ、会員のみならず事業者様との顔の見える関係を持つ事ができ、後方支援の財産のようにも思っています。また、本年度は、地域包括ケアシステム体制の構築のため行政の取組みが進んでまいりました。2市2町の進捗状況はそれぞれではありますが、会員の声を聞き置かれている状況にそった行政への働きかけや支援を目指し誰でも参画したくなるような無理のない支部活動を目指していきたいと思います。三重県では、ケアマネジャー不要論を打ち負かせる力を誰もが持てるようにお互いに協力をし合い研鑽しましょう。



○三泗支部○

連絡先：059-377-5500

四日市市、菰野町、朝日町、川越町の一市三町に在勤、在住する介護支援専門員を会員として活動を行っています。平成27年度は「医療と福祉の連携」をメインテーマに記念講演（総会）を含む年6回の研修・交流会を企画し、会員の資質向上及び連携を図っています。そんな中、四日市市で10月に起こったサービス付高齢者



向け住宅の急な閉鎖の際には、日頃培ったケアマネジャー相互の連携をもとに、関わったケアマネジャーにより入居者全員の転居を無事に行いました。来年度も、地域における課題に取り組むとともに、住みよい地域づくりを意識しながら、よりよいサービスが提供できるよう、ケアマネジャー個々の技量を高めるとともに、相互連携を図るための研修、交流会を企画したいと思います。引き続き、新規会員を募っておりますので、是非ご参加頂きたいと思います。

○鈴鹿支部○

連絡先：059-370-3751

去る11月5日（木）鈴鹿市社会福祉センターにて、介護の日公開講座2015を開催いたしました。講師に、越智須美子氏をお招きし、若年性認知症をテーマにお話しいただきました。越智先生は、映画「明日の記憶」のモデルになられた方でもあり、当日は、一般の方々を始め、医療職、介護サービス事業所職員、介護支援専門員、福祉関係者等135名もの方にご参加いただきました。講座では、越智先生の講話のほか、実際の介護の日々を綴ったDVDを視聴するセクションもあり、ご本人、ご家族の想いを改めて深く理解することが出来ました。当日参加した介護支援専門員からは、「認知症、若年性認知症の本人、介護者の想いを受け止め、これから支援に活かしていきたい」という意見がありました。



○津支部○

連絡先：059-265-6600

津支部は2か月に一回の勉強会の開催を軸に活動を展開しています。今年度は、成年後見制度、生活困窮者支援法、介護保険制度改革に伴う制度理解へ保険者を交えての意見交換、三重大経済学の教授を招いての貧困問題と介護支援専門員の関わりなど、多彩な内容の勉強会を開催することができました。



また、各関係機関との連携をさらに深め、職能団体としての介護支援専門員の意見が反映できるような取り組みを開始しております。総合支援事業へ向けた津市の実務者会議への出席、各包括支援センターが開催している地域ケア会議への参加、医療連携へ事例検討会や勉強会への参加など積極的に行っております。今後も会員相互の連携をさらに密にしながら、未加入の介護支援専門員に対する加入促進も進めていければと考えております。

○松阪支部○

連絡先：0598-48-2600

今年度当支部は、「多職種連携を図るためのスキルアップ～異文化コミュニケーションがとれる力を養う～」というテーマで、計10回の研修会を企画しました。

11/12(木)の多職種連携研修会[写真参照]では、15名の医師を含む143名の非会員の参加を得て、総勢231名で「終末期ケアにおける多職種連携」についてグループワークを行いました。参加された各団体の代表者から、今後の連携に向けた重量級の総括コメントをいただき、確かな手ごたえを感じる研修会となりました。

また12月には、市内3ヶ所の総合病院のうち済生会松阪総合病院との共同開催という形で、病棟看護課長やMSWの方と共に交流会を開催。また、松阪市及び多気郡三町との意見交換会においても、介護保険制度の改正等について会員アンケートを基に意見交換を行い、その成果は、東海ブロック研修会において行政連携部会の飯田陽子部長が発表するなど、4部会が大変充実した活動を展開しました。



○伊賀支部○

連絡先：059-213-7766



伊賀支部は、主に伊賀市・名張市で働く介護支援専門員を中心に活動しております。現在の会員数は42名となります。

定期的な役員会と2ヶ月に一回の研修会を実施しております。昨年度は支部研修会の参加率の低下があり、今年度は会員様に研修会の事前アンケートを行い、会員の希望中心の研修内容を実施し、今年度の研修会参加率の上昇と非会員の研修会参加増加があり、会員の新規加入にも期待を寄せているところもあります。研修会では、伊賀市役所介護保険担当課に協力依頼を行い、「ケアプランチェック実施上の注意点」や又、三重県介護支援専門員協会の倉田副会長講師で「ケアプランの作成に当たっての基本的な事、利用者の声を形にする。」等、基本に戻り、仲間が集い情報を共有できる場として支部活動を充実させていっているところであります。今後も、介護支援専門員の資質と社会的地位を目指し、努力していきたいと思います。

○南勢志摩支部○

連絡先：now2just7relax@yahoo.co.jp

支部で行う研修会は毎年4～5回で、決して多いほうではありませんが、地域の医師会にご協力を頂き、開業医の先生に講師をお願いしている医療関連研修（会員限定）は人気の研修となっております。今後は他職種、他団体とも協力し連携をさらに高めていくことを目指していきます。また、講演を聴くだけではなく、一昨年から色々な洋菓子店のケーキを食べながらの懇親会や朝瀬蘭さんによるメディテーション音楽liveなど、会員の皆様に一息ついて頂ける内容も盛り込んでおります。

当支部は毎年会員数が増えており150名を超えるまでになっております。広い地域ですから研修会場が偏らないように、会員の皆様にとつて実りある内容の研修会を企画してまいります。



○紀北支部○

連絡先：0597-33-0988

私たちが活動する紀北（きほく）地区は県の南部、東紀州に位置します。この地域は人口が合計3万5千人程で、過疎・高齢化が大変進んでおり、会員数は28名と少ないのですが、会員同士力を合わせて活動を行っています。

今年度は「地域包括ケアシステム」をテーマに、合計3回の研修会を企画し、今回初めての取り組みとなる地域の方々を対象にした「公開講座」を開催しました。

前和歌山県社会福祉士会会長の川口富士夫氏（みなべ町社会福祉協議会事務局長）を招き、地域の抱える課題に添った内容での講義とグループワークにより、地域の方々や福祉関係のみなさんと共に知識を共有し、日頃の想いを話し合うことで、活発な意見交換が行われました。

また研修会のみではなく、会員同士の親睦を深めるための交流会を開催しています。

紀北支部はこれからも地域に根ざし貢献できるような活動を続けていきます。



○紀南支部○

連絡先：059-213-7766

平成27年度の紀南支部の活動のキーワードは『多職種連携』です。それを具現化するために、多職種・他団体等と様々な活動を行っています。

第一に、紀南医師会を中心とした『紀南地域包括ケア研究会いこら』（以下、「いこら」という。）への参画です。『いこら』は、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・保健師・介護福祉士・行政職員・介護支援専門員等の多職種で構成され、各専門職の相互理解を深めるために活動しています。本年度は、各専門職から日々の取組み等の発表を行い、それぞれの立場から意見交換を行っています。理解しているつもりになっていることが多いことに気づかされる機会となっています。

第二に、地域包括支援センター主催の多職種を交えた事例検討会への参加です。これは、介護支援専門員の他、医師、歯科医師、看護師等が介護支援専門員の提供する事例を基に各専門職の立場から課題抽出、今後の方向性を検討しました。同じ事例を見ても、専門職としての視点が違うことが大変新鮮であり学ぶことが多い時間となりました。その他、紀南福祉士会・紀南介護事業者連絡会と活動することもあります。

介護支援専門員資質向上のため、単独研修会も2月に予定していますが、多職種連携を重視した活動を今後も行っていきたいと思います。

FOCUS ケアマネ

ケアマネジャー
からのメッセージ

File 13 主任ケアマネジャーとして 地域とつながっていくこと

アイリス居宅介護支援センター 田中 由香里



主任ケアマネジャーになったものの・・・、地域で、いつどのように貢献していくの？居宅の主任ケアマネジャーができるって何？と考えながらも、時間が過ぎていたときに、「とにかく、主任ケアマネジャーのみんなで集まって、これからのこと、自由に話してみましょうよ」と頼もし仲間に引っ張られて始めたのが、主任ケアマネジャーの会です。

この時、私の職場いなべ市と隣接の東員町で主任ケアマネジャーは15人。2ヶ月に1回情報交換や研修会の場として集まってきたが、参加人数が減ってきて「もうやめた方がいいのかな」と弱気になった時も、「人数じゃないのよ。続けることに意味があるんだから。」と、また仲間に背中を押され、活動は3年半になりました。

この会をきっかけに、地域貢献したいと思っている主任ケアマネジャーが集っていることを市に説明し「地域資源として、主任ケアマネジャーを活用してほしい」との提案が受け入れられ、いなべ市では行政、地域包括支援センター、そして市内の主任ケアマネジャーがペアになってのケアプラン点検が平成27年度から始まりました。

同じく、同市ではケアマネジャーの資質向上を目的とした地域ケア会議が2ヶ月に一度開催されており、今年度は私が助言者として参加しています。事例検討を通してケアマネジャーのアセスメントの視点や事例の読み解き、面接技術への学びや気づきにつながってほしいと願い、地域包括支援センターと連携し、一歩ずつ階段を登っています。

これからは、会の仲間それが一步を踏み出してもらえる後押しを、私がしていく順番だなと思い、その準備もしています。

一人では何もできなかった私ですが、頼もし仲間の一言で一步を踏み出したこと、今の活動や地域の期待につながっているのだと実感しています。仲間に感謝しつつ、これからも主任ケアマネジャーとして自分がすべきことに、気負わず挑戦していきたいと思います。

INFORMATION

去る12月6日（日）桑名市民会館において日本介護支援専門員協会東海ブロック研修会が開催されました。当日は幸い天候にも恵まれ、約200名を超える参加者が参集しました。

メインテーマの地域包括ケアについて、参加者が見識を深めるに資する濃い内容の研修会であったと感じました。

ところで、この研修会は、日本介護支援専門員協会の研修活動の一環として、愛知・岐阜・静岡・三重の順で4県が連続2年（2回）ずつ持ち回りで担当し開催するものです。つまり、三重県の担当は、本年度が1年目（1回目）で、来年度も三重県が当番県となり開催されます。今年の研修会が終了したばかりではありますし、まだ、来年度の会場やテーマも決まっていませんが、今年参加できなかった方は、来年度の研修会にはぜひご参加ください！



2015年4月の介護保険制度改革からはや1年。今回の改正がケアマネジャーの資質向上を目的としたものである以上、猶予期間が設けられたとはいえ、今や制度の過渡期といえます。一定の成果を上げないと、かつてのような“ケアマネ不要論”が再度浮上するかもしれません。ケアマネジャーが介護保険制度の維持に貢献していることを示していくために、事業所や地域の垣根を越え、会員一丸となってその役割を果たしていこうではありませんか！

